

TAKE FREE

ご自由にお持ちください

水戸赤十字病院 広報誌

〒310-0011 茨城県水戸市三の丸3-12-48

TEL.029-221-5177(代表)

<http://www.mito.jrc.or.jp>

2026.1
Vol. 57
【隔月刊】



プレゼント付
アンケート企画開催中!
詳細はP7へ

虹の由来／架け橋となるような広報誌を目指します



題字：水戸赤十字病院 院長 野澤英雄

駿馬の歩みは力強く、揺りぐさがありません。どんなに時代が変化しようと、私たちが大切にしたいのは、皆さまのそばで一歩ずつ信頼を積み重ねること。地域という大地をしっかりと踏みしめ、皆さまとともに健やかな未来へ歩んでいきたい。そんな願いを「駿歩」の二文字に込めました。

P2:下部消化管外科紹介 P3:呼吸器内科紹介 P4:春を快適に!知っておきたい花粉症対策のポイント、がん相談支援室のご紹介 P5:無痛分娩を開始しました、新たな採用への取組～看護体制の一層の充実に向けて～ P6:登録医紹介 P7:読者アンケート P8:院長コラム(新年のご挨拶)





患者さまの命を預かるプロフェッショナルとして
日々診療に取り組んでいます



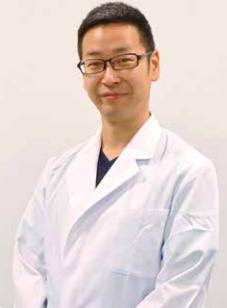
下部消化管外科では、「患者さまの健康への願いを叶える」ことを第一の目標として、主に大腸・肛門に関する良性・悪性疾患に対応しています。特に大腸がんの治療においては、「根治性」「低侵襲」「治療後の満足度向上」を三本柱に掲げ、早期の回復と機能温存を重視したきめ細やかな診療を心がけています。

**副院長
下部消化管外科部長
捨田利 外茂夫**

【専門分野】消化器(大腸・肛門・胃)
【認定資格】日本外科学会指導医、日本大腸肛門病学会指導医、日本消化器外科学会指導医／消化器がん外科治療認定医、日本消化器病学会専門医、日本消化器内視鏡学会指導医ほか

**下部消化管外科副部長
立川 伸雄**

【専門分野】外科一般
【認定資格】日本外科学会専門医、日本消化器外科学会専門医／消化器がん外科治療認定医、日本消化器内視鏡学会指導医、日本内視鏡外科学会技術認定医(消化器・一般外科)、日本大腸肛門病学会専門医、日本内視鏡外科学会 ロボット支援手術ブロッター(消化器・一般外科)ほか



◆大腸がん治療3つの特徴

- | | |
|-------------|--|
| 1 根治性の追求 | … 原発巣の切除から、リンパ節の郭清や遠隔転移の除去まで、がんの根治を目指し治療いたします。 |
| 2 低侵襲な治療 | … 侵襲が少ない腹腔鏡下手術やロボット支援手術を活用しています。結腸がん、直腸がんのいずれについても、手術支援ロボット「ダビンチ」を用いた腹腔鏡下手術を保険診療で提供できる体制を整え、患者さまの早期回復をサポートします。また、早期のがんには、内視鏡的粘膜切除など、より負担の少ない手法を積極的に行ってています。 |
| 3 治療後の満足度向上 | … 治療後の患者さまの生活の質(QOL)向上を重視しています。特に直腸がんにおいては、排便機能や性機能に関わる神経の温存に最大限配慮しています。また、医療チーム(医師・看護師・薬剤師・コメディカル)の連携による迅速かつ丁寧な対応、患者さま一人ひとりに向き合った治療とケアを実践し、退院後の生活までを見据えたサポートを心がけています。 |

◆結腸がん治療について

腹腔鏡下手術やロボット支援手術を基本とし、多臓器浸潤や癌着がある場合でも対応を検討いたします。ポート数を減らすことで傷を少なくし(Reduced port surgery)、鏡視下での治療を行うことで、術中の出血量の減少、合併症リスクの低下に繋げ、術後の早期回復に繋げています。

術創部は、抗菌作用を持つ縫合糸による閉創を行うなど、細部にまでこだわった感染予防策を講じています。

肝転移が確認された場合は、当院の日本肝胆脾外科学会高度技能指導医と協力し、症例検討会で議論の上対応しています。

◆直腸がん治療について

直腸がんは、根治性の向上と排泄機能温存が重要です。

SMがん(粘膜下層浸潤)疑いに対し、直腸を温存し、排便障害を回避するため、診断的内視鏡治療を行っています。

ロボット支援手術では、多関節機能により、狭い骨盤内での精緻な操作が可能です。これにより、肛門括約筋や膀胱神経の温存を叶えるだけでなく、がん細胞を取り残すリスクを減らし、再発率の低下にも寄与しています。

縫合不全のリスクがあると判断された場合には、一時的ストーマを造設し、吻合部がしっかりと治癒したことが確認された後、閉鎖手術を行います。ストーマ閉鎖後は、便は再び肛門から排泄できるようになります。当院ではストーマ造設期間を短縮することで、肛門括約筋の萎縮の進行や、ストーマ関連の合併症のリスクを低減することができるよう心がけています。

また、症例に応じて、Watch and Wait療法(放射線治療と全身抗がん剤治療を組み合わせて先行治療し、慎重に経過をみる非手術治療)にも対応しております。高齢者や手術リスクの高い患者さまに対し有効な選択肢であり、永久人工肛門を回避できるケースもあります。

◆下部消化管外科からのメッセージ

患者
さまへ

当科では、患者さまに最善の医療を提供するため、優しさと丁寧な説明を大切に、チーム一丸となって診療に取り組んでいます。お腹の不調や検診の結果でご不安なことがございましたら、お気軽にご相談ください。

各医療
施設の
皆さまへ

大腸がんやポリープ、便潜血陽性、消化管出血、痔核手術など、幅広い症例に対応可能ですので、近隣の先生方におかれましては、ぜひ当科へご紹介ください。



様々な呼吸器疾患に

幅広く対応しております

副院長
呼吸器内科部長
富岡 真一郎

【専門分野】呼吸器内科・総合内科
【認定資格】日本呼吸器学会指導医、
日本内科学会総合内科指導医、日本
呼吸器内視鏡学会指導医

地域の総合病院の呼吸器内科として、患者さまに寄り添う丁寧な診療をモットーとしています。緊密な病診連携のもと、専門性を生かした最適な医療の提供に尽力します。

◆呼吸器内科について

当科で診療している疾患は、気管支喘息や慢性閉塞性肺疾患(COPD)、気管支拡張症、肺炎、肺結核や抗酸菌感染症、肺がん、間質性肺炎、睡眠時無呼吸症候群などです。

これらの主な症状として、咳・痰、労作時の息切れ、喘鳴、呼吸困難、血痰(喀血)、胸痛、健診での胸部レントゲン異常、日中の眠気や入眠中の呼吸停止などがあります。

当科で特に力を入れている治療

・気管支喘息の分子標的製剤の導入と治療

近年、吸入治療薬の進歩とともに喘息に対する分子標的治療薬が使用されるようになりました。難治性喘息に苦しむ患者さまに新たな治療の選択肢が増えました。

・肺がんの診断と治療

健診や症状をきっかけに発見される肺がんの患者さまは後を絶ちません。

当科では、HRCT(高分解能CT)や気管支鏡検査などを活用し、肺がんの早期診断と最適な治療の提供に努めています。
また、PET検査や呼吸器外科専門医との連携により、質の高い診療を心がけています。

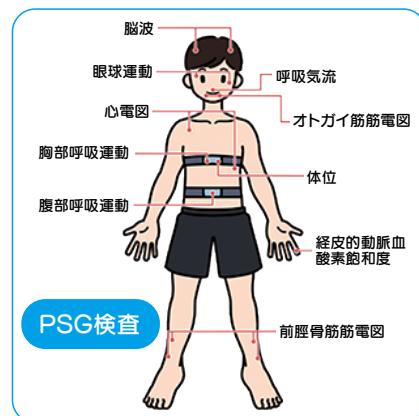
・睡眠時無呼吸症候群の診断

一泊入院でのポリソムノグラフィ検査(PSG検査:体に複数のセンサーを取り付け、睡眠状態を詳しく調べる精密検査)を実施しています。

検査結果により、重症の睡眠時無呼吸症例に対するCPAP(持続陽圧呼吸療法)の治療を実施しています。

・あらゆる呼吸器疾患の診断と最適な治療方針の決定

慢性的な咳、痰、息切れは、見過ごされがちな重大な呼吸器疾患のサインである場合があり、適切な治療介入を行ってまいります。



◆呼吸器内科からのメッセージ

患者さまへ

地域の総合病院の呼吸器内科として、皆さまの人生に寄り添う医療の提供を心がけております。長引く咳や息苦しさでお困りの方や、健康診断で精査を勧められた方はぜひご相談ください。

各医療施設の皆さまへ

地域の先生方のお力添えを賜りまして、呼吸器疾患に苦しむ患者さまに良質な医療を届けることができるよう、努力してまいります。ご紹介をよろしくお願ひいたします。



知っておきたい

花粉症対策のポイント

春の訪れとともに、多くの方がつらい症状に悩まされる「花粉症」。体内に侵入する花粉を、いかに少なくするかが重要です。花粉を極力避けることは、症状を緩和するだけでなく、まだ発症していない方にとっては、将来の発症を遅らせることにつながります。

天気予報などで花粉飛散情報が提供されますので、こうした情報を確認し、万全の対策と早めの予防を心がけましょう。

花粉対策には、顔にフィットするマスクとメガネの着用がおすすめです。着用しない場合に比べ、花粉の吸入を約70%減少させる効果が認められています。

毎年症状が出る方は、花粉が飛び始める時期の1週間前までに医療機関へご相談ください。シーズン前から早めにお薬を使い始めることで、発症を遅らせたり、症状を軽減する効果が期待できます。

アレルギー治療薬には、眠気など副作用のあるものがありますが、眠気の出にくいお薬もあります。眠気が気になる場合は、ぜひ主治医の先生にご相談ください。



がん相談支援室のご紹介



当院では、2009年から「がん相談支援室」を開設し、昨年は1600件以上の相談に対応いたしました。現在、専門的な知識を持つ3名の認定看護師(がん化学療法看護、乳がん看護、緩和ケア)が、患者さまやご家族のお悩みに丁寧に対応しております。

相談内容に応じて、院内その他職種、他部門ともに連携し、多くのスタッフが関わりながら、問題解決に努めています。また、当院で治療を受けている患者さまはもちろん、他施設で治療を受けている患者さまの相談にも対応しております。

主な相談内容

- ・治療や検査について
- ・治療による副作用や合併症について
- ・ご家族・医療スタッフを含めた人間関係について
- ・就労(仕事)について
- ・緩和ケア病棟をはじめとする療養環境について
- ・セカンドオピニオンについて
- ・患者サロンについて など

私たちに、安心して
ご相談ください



がんとの闘病は、病院の中だけで完結するものではありません。ご本人やご家族の生活全体を見守ることが必要です。これからも、地域の皆さんと連携し、がんを患う皆さんをしっかりと支援していきたいと考えておりますので、どうぞよろしくお願ひいたします。

無痛分娩を開始しました

令和7年12月から、「無痛分娩」を開始しました。

●無痛分娩とは…… 腰から細い管を挿入して麻酔薬を注入する「硬膜外麻酔」という方法を用い、出産時の痛みをやわらげる分娩方法です。痛みがやわらぐことで心身に余裕が生まれ、落ち着いてお産に臨めるほか、体力の消耗やストレスの軽減にもつながるといわれています。

現在は、出産経験のある方を対象に、週1件のみ、事前に分娩日を決めて行う「計画無痛分娩」として実施しています。今後は、対象となる方や対応可能な件数を段階的に拡大していく予定です。



詳細や最新情報については、
こちらをご確認ください。→



当院は茨城県の地域周産期母子医療センターとして、産婦人科・小児科・麻酔科をはじめ、助産師・スタッフなど多職種が連携し、安心して妊娠・出産を迎える環境づくりに努めています。

新たな採用への取組

～看護体制の一層の充実に向けて～



昨年末、当院は特定技能外国人制度を活用し、インドネシアから10名の看護補助者を採用いたしました。社会貢献への強い気持ちと、日本で働くという明確な志望動機を持つ若者たちです。日本語教育や業務知識・技術はもちろん、日本の文化や生活習慣、患者さまとの円滑なコミュニケーションについてもしっかりと研修を受けています。

現場では、看護師の指示のもと、患者さまの身の回りのお世話やケアを担当します。これにより、看護師はより専門的な業務に専念でき、皆さまへのケアが一層きめ細かくなることが期待されます。

誠心誠意、がんばります!
よろしくお願ひいたします!

今回の採用は、当院の新たな挑戦の一つです。この10名が一日も早く日本の環境に慣れ、現場で活躍できるよう、病院全体でサポートしてまいります。

そして、病院にとっても、新スタッフたちにとっても、何より患者さまにとっても、「受け入れてよかつた」「日本に来てよかつた」「水戸日赤で診てもらってよかつた」と思っていただけるよう、職員一丸となって取り組んでまいります。



水戸赤十字病院登録医紹介

当院の基本方針である「地域に愛され、信頼される病院」「安全かつ良質な医療の提供」を推進するための心強いパートナーとなる登録医の先生を紹介します。

ひたちの中央クリニック

院長 尾内 高子 先生

貞心会グループの基本理念である「真心とサービス」の精神で、地域の皆さんに愛されるクリニックを目指し、職員一丸となって心の通った安心安全な医療を提供していきたいと思いますので、どうぞよろしくお願ひ申し上げます。常陸太田市はもちろん、近隣地域の「健康」の一翼を担えるように今後も努力してまいります。

皆さまにとって身近なクリニックを目指しておりますので、どんなことでもお気軽にご相談ください。

《当院紹介》

当院は平成18年に西山堂病院の外来部門の一部を独立させた外来専門のクリニックです。

一般内科はもちろん、糖尿病・循環器・呼吸器などの専門内科、小児科、皮膚科、整形外科など多くの診療科を有しており、さらに隣接する西山堂病院には、耳鼻科、眼科もあり、西山堂病院と連携して一つのエリアで総合的に診察ができる医療体制を整えており、急な入院が必要となった場合でも迅速に対応できます。

住 所：常陸太田市木崎二町931-6(駐車場あり)
T E L：0294-72-5125

診療時間	月	火	水	木	金	土	日・祝
9:00～12:00 受付は11:30まで	●	●	●	●	●	●	休
14:00～17:30 受付は17:00まで 土曜日は16:00まで	●	●	●	●	●	●	休

診療科：一般内科、循環器内科、糖尿病・代謝・内分泌内科、脳神経内科、腎臓内科、呼吸器内科・アレルギー科、消化器内科、禁煙外来、小児科、整形外科、皮膚科、泌尿器科

※各診療科の診療日はHPをご確認ください。



Instagram



HPはこちらから!



笠原中央クリニック

当院は先代院長である岳父大久保秀樹が1995年に開院し約30年が経過しました。
2024年4月より2代目として鈴木英一郎が院長に就任いたしました。

これまで地域のかかりつけとして「切れ味の良い治療」をモットーに多くの患者さんに愛されてまいりました。新院長として、これまで同様地域医療に貢献するとともに、肝臓・糖尿病・がんの早期発見を中心に、多様化する患者さんのニーズにこたえるべく全身全霊をもって医療を行ってまいります。



《当院紹介》

内科系無床診療所ですが、建坪100坪、駐車場50台以上と大きく、床暖房、小児待合室、など快適さも確保されています。

胃カメラは経口、経鼻と2種類。早期がんの検出に不可欠の全身CTも装備されています。生活習慣病の管理のため、眼底カメラ、血管年齢測定装置、呼吸機能測定装置などもあります。

さらに、最新式の骨密度測定であるDXA(デキサ)も導入しました。

また、当院は患者さまから得られたデータは全てコピーをお渡ししています。医師の説明は透明正確さを期すため口頭および文書で実施されています。

HPはこちらから!



院長
鈴木 英一郎 先生

診療時間	月	火	水	木	金	土	日・祝
9:00～12:15	●	●	●	休	●	●	休
15:00～18:00	●	●	●	休	●	●	休

住 所：水戸市笠原町565-7(駐車場あり)

T E L：029-244-6011

診療科：内科、糖尿病内科、アレルギー科、消化器内科、胃腸内科、肝臓外来、小児科、健康診断





受診の際にはマイナ保険証をご利用ください

受診時にマイナ保険証をご利用いただき、必要な情報提供に同意することで、次のようなメリットがあります。

- 特定健診情報や他医療機関の診療情報を当院の医師が閲覧でき、より多くの情報に基づいた適切な診療を受けることが可能となります。
- 高額な医療を受けることになった際、限度額適用認定証がなくても、限度額を超える支払いが免除されます。

詳しい制度については厚労省ホームページをご確認ください。
(こちらのQRコードから閲覧できます。)



※マイナ保険証をお持ちでない方は、資格確認書をご提示ください。

※マイナンバーカードの健康保険証利用には申し込みが必要ですが、病院に設置している顔認証付カードリーダーからもお手続きができます。

※マイナ保険証利用の場合でも、各種医療証（公費負担医療受給者証、乳幼児医療費証、特定疾病療養受領証等）は従来通り窓口でのご提示をお願いします。

「水戸日赤でお産」 という選択肢

産婦人科医と経験豊富な助産師たちが、妊婦さんを一丸となってケアします。ハイリスクでないかたも、里帰り分娩のかたも、当院でのお産を歓迎します。

産科の電話予約について

受診希望の妊婦さんからの電話予約を受け付けております。

029-221-5177(代)

受付時間 9:00~16:30(月~金)

※休診日（土・日・祝日など）を除きます。

「産科外来の
予約を希望」と
お伝えください。



就任のお知らせ

下記の医師が就任いたしました。よろしくお願ひいたします。

【令和8年1月1日付】

緩和ケア内科副部長

しまだ のぶひろ
島田 宣弘

退任のお知らせ

下記の医師が退任いたしました。大変お世話になりました。

【令和7年12月31日付】

産婦人科

さかば だいすけ
坂場 大輔

読者アンケート×プレゼント企画!



病院広報誌「虹」をより良くするために、皆さまのお声をお聞かせください。アンケートに回答いただいた方の中から抽選で20名様に、**日赤文具セット**（左写真の中からランダムで3点）をプレゼントいたします！ぜひご協力をお願いいたします。

1分アンケートにご協力を願います！

こちらのQRコードを読み取って回答いただけます。

回答期限は令和8年2月28日までです。



理念と基本方針



私たちは、人道・博愛の赤十字精神のもとに全人的医療の提供に努め、患者の皆さまの権利を尊重します。



1. 地域に愛され、信頼される病院として、皆さまとともに歩み続けます
2. 安全かつ良質な医療の提供に努めます
3. 患者の皆さまの権利を尊重します
4. 赤十字の使命に基づき、救急医療及び災害救護の充実に努めます
5. 健全な経営に努め、働きやすく活気あふれる職場づくりに取り組みます



日本赤十字社
Japanese Red Cross Society

水戸赤十字病院

〒310-0011 水戸市三の丸3丁目12番48号

TEL: 029-221-5177(代表)

FAX: 029-227-0819(代表)

編集: 水戸赤十字病院広報委員会

発行責任者: 事務部長 大高 幹夫

◆診療受付 初診／8:30~11:00

再診／7:30~11:00

◆診療開始 8:30 ※診療科、曜日によって例外があります。ご注意ください。

◆休診日 土・日曜日、祝日及びその振替休日、日本赤十字社創立記念日（5月1日）、年末年始（12月29日～1月3日）

院長コラム

Vol.4

Long Way To Go ~まだまだ先は長い~

新年のご挨拶



謹んで新年のご挨拶を申し上げます。

新しい年の幕開けにあたり、皆さまのご健康とご多幸を心よりお祈り申し上げます。

水戸赤十字病院の職員一同、この清々しい初春に、地域医療を守り抜くという決意を新たにいたしました。

昨年一年間、地域の皆さま、そして患者さまをご紹介いただいた診療所・クリニックの先生方には、格別のご支援を賜り、心より感謝申し上げます。皆さまの温かいお力添えがあってこそ、私たちは日々の医療を続けることができました。

一方で、医療を取り巻く環境は大きな変化の中にあります。日本は「少子高齢化」という構造的な課題に直面し、昨年は団塊の世代が後期高齢者となる「2025年問題」の節目を迎えるました。

この人口構造の変化は、医療提供体制に極めて深刻な影響を与えていました。当院も例外ではなく、看護師、医師、そしてコメディカルスタッフなど、あらゆる職種において人材不足に喘いでいるのが現状です。

さらに、電気料金や医療材料費、給食費といった物価の高騰は、地域住民の皆さまの家計を圧迫しているのと同様に、病院の運営コストを劇的に押し上げています。これに人材確保のための人件費高騰が追い打ちをかけ、病院経営はかつてないほど厳しい状況に置かれています。

こうした状況下で、本年春には診療報酬改定が予定されています。私たちは、この改定が、医療提供体制の維持・強化、特に人材への適切な評価と、DX（デジタルトランスフォーメーション）を後押しするものとなることを強く期待しております。

「人が足りない」ではなく、「人が充足しない前提」で地域医療をどう守るか。これが、私たちに課せられた最大のテーマです。

DX推進は、「人が充足しない未来」における、当院の「生きる道」であると確信しています。それは、この地域の患者さまと、連携してくださる先生方への責務であると考えているからです。今や私たちの生活に不可欠な宅配便でさえ、ドライバー不足と再配達の課題に直面し、AIやドローンによる自動化を急いでいます。この波は、地域社会を支える医療においても例外ではありません。

また、人手不足を嘆くのではなく、限られた人員で最大限の力を発揮するために、業務の工夫やチームの連携をさらに深めています。そして、患者さま一人ひとりに寄り添う心を決して失わないと、それが私たちの使命です。

どんなに厳しい状況でも、患者さまの笑顔や「ありがとう」の言葉が、私たちの力になります。地域の皆さまとともに歩み、支え合いながら、この地で安心して暮らせる未来を築いていく——その思いを胸に、今年も全力を尽くしてまいります。

本年も、変わらぬご指導と温かいご支援を賜りますよう、心よりお願い申し上げます。

どうぞ皆さまにとって、笑顔あふれる一年となりますように。

水戸赤十字病院 院長 野澤 英雄